

九州支部

り、気管支腺由来の腫瘍であることが免疫組織学的に示唆された。

38. 肺非小細胞癌および転移性肺癌に対する Cisplatin, Vindesine, 5-FU併用療法

久留米大放射線科 袋野和義 隈部 力, 水流浩志, 西村 浩 森口義博, 大坪正明, 横手敏明 小金丸道彦, 大竹 久

1985年11月以来肺癌に対し Cisplatin, Vindesine, 5-FU併用療法を9例に行った。その内訳は放射線療法併用を3例, 放射線療法後の再発例および腫瘍残存例にBAI療法(Cisplatin, Vindesineを注入)を3例, 転移性肺癌に5-FUを中心静脈より14日間持続投与する方法を3例に行った。各群の奏効率はいずれも67%であった。副作用は5-FU持続投与群が他の群よりもやや血液毒性が強かった。また、悪心と倦怠感ほぼ全例に認められた。

39. Cis-platinum(CDDP)を中心とした多剤併用療法にて完全寛解をえた縦隔胎児性癌の1例

国療長崎病院内科 峯 豊 津野至孝, 藤田紀代, 植田保子 河野浩太, 久保 進, 中西 啓 同 外科 永江隆明, 滝 紀雄 坂井定治

長崎大学第1病理 池田高良 症例は24才の男性, 咳嗽および発熱を主訴として来院。胸部X線写真上, 前縦隔に巨大な腫瘍影がみられた。また, 両側鎖骨上窩リンパ節の腫大がみられリンパ節生検の結果, 胎児性癌の組織診をえた。Cisplatin, Vindesine, Peplomycinの3剤併用療法を開始したところ, 3クール終了時に腫瘍はCRとなった。現在VP-16とCisplatinを

1ヵ月間隔で交互に投与しているが再発の兆候はみられていない。

40. CDDP, ADM, PEP, (PAP)による肺癌術後の adjuvant chemotherapy の検討

九州癌化学療法研究会

九州大第2外科 永島 明

非小細胞性肺癌切除例(118例)を対象にCDDP, ADM, PEPによる術後adjuvant chemotherapyの検討を行なった。治療法群として 1) 無処置対照群 2) 化学療法群 3) 免疫療法群 4) 化学療法免疫療法併用群を設けrandomized studyを行ないStage III症例ではさらに放射線療法を加え化学療法からADMを除いた。生存率では4)が最も良好で以下3), 2), 1)の順であり, 4)と1)の間に有意の差を認めた(G. W. $p < 0.05$)。Stage I + IIに限っても同様の傾向が認められた。

41. 肺非小細胞癌に対する CDDP+VDS と CDDP+VDS+MMCの併用化学療法の臨床比較試験

国立病院九州がんセンター

呼吸器部 田中希代子

近藤宏二, 大津康裕, 馬場郁子 緒方充彦, 三宅 純, 竹尾貞則 本広 昭, 原 信之, 大田満夫 切除不能肺非小細胞癌に対して, Cisplatin(100mg/m², Day 1)+Vindesine(3 mg/m², Day 1, 8, 15)のPV療法と, さらにMitomycin C(5 mg/m², Day 1)を加えたPVM療法との, 臨床比較試験を行った。

PV療法群 8例(adeno: large: sq = 4: 1: 3 Stage III: IV = 5: 3)中1例にCRが, 5例にPRが得られ奏効率75%であった。PVM療法群 8例

(adeno: large: sq = 6: 1: 1 Stage II: III: IV = 1: 2: 6)中, 4例にPRが得られ奏効率50%であった。症例数が少ないが, 副作用についても, 両群間に有意差は認めなかった。

42. 肺小細胞癌に対するVP-16を主とした多剤併用療法

長崎大第2内科 福田正明

早田 宏, 谷口哲夫, 木下明敏

副島佳文, 力竹輝彦, 松本好幸

鶴川陽一, 河野謙治, 岡三喜男

神田哲郎, 斎藤 厚, 原 耕平

男性12例, 女性2例の計14例

の肺小細胞癌に, VP-16を主と

した多剤併用療法を行った。評

価可能10症例における抗腫瘍効

果は, PR 5例, NC 4例, (MR

1例)で, 奏効率は50%であ

った。なお, 初回治療例につ

いてみると, 8例中5例で63%の奏

効率であった。副作用としては

重篤なものはない。以上よ

り, VP-16は肺小細胞癌に対

する多剤併用療法の薬剤の一つ

として有用であると思われた。

43. 非切除肺癌の化学療法の成績(第2次研究)

九州肺癌化学療法研究会

原 信之, 大田満夫

市川洋一郎, 神田哲郎

志摩 清, 田村和夫, 外間政哲

非切除肺癌169例を対象に

して強力(A)と軽化学療(B)の成

績を比較した。A群では腺癌と

大細胞癌にCAP-M, 扁平上皮

癌にPAPを, B群ではMFCと

METTをそれぞれ行った。III期

には放射線照射を併用した。成

績はA群で奏効率41%, 腺癌大

細胞癌のMST9.5ヶ月, 扁平上

皮癌8.5ヶ月で, B群のそれぞれ

22%, 5.5ヶ月, 6.5ヶ月に比べ

良好であった。しかしこれらの

傾向はIV期例にのみ見られ, III

期例には認められなかった。